

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.119) 2021/12/20

目次

1. 第48回大会開催挨拶
2. 第48回大会演題申込等のご案内
3. 理事会報告
4. 定例研究会（関東）報告
5. 定例研究会（関西）報告
6. 看護・ケア研究部会報告
7. 渉外・国際交流活動
8. 会員情報管理のための「マイページ」の導入について
9. 「保健医療社会学を学べる研究者」情報の募集
10. 編集後記

---

## 1. 第48回大会開催挨拶

第48回日本保健医療社会学会大会は、オンラインと松山大学での現地開催のハイブリッド開催とします。昨年と今年の第46回・47回大会は2年連続でオンライン開催でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大の懸念はあるものの、ソーシャルディスタンスとマスク着用による新しい生活様式が定着し、一定の感染予防措置を講じれば、対面での大会開催も可能であるとの判断に至り、ハイブリッド開催にいたしました。

今大会のテーマは「つながりと再生ーウィズコロナの現実を生きる」です。この2年間のコロナ禍の経験を踏まえて、教育講演として愛媛県愛南町にある公益財団法人正光会御荘診療所医師の長野敏宏先生、大会記念公演として日本赤十字看護大学名誉教授の武井麻子先生、そしてシンポジウムとして「ウィズコロナをどう生きるかー感染症のスティグマを乗り越える」を大会実行委員会として企画しました。長野敏宏先生は、149床の精神科単科病院であった御荘病院を2016年に閉鎖し、現在は御荘診療所を拠点として、「私たち」が町で生き抜くための地域づくりに取り組まれています。また、武井麻子先生はパンデミックの中の感情労働をテーマに、つい最近『思いやる心は傷つきやすい：パンデミックの中の感情労働』（創元社）を出版されたばかりです。お二人から、ウィズコロナの時代を生きる知恵を学んでいきたいと思います。

2020年3月に新型コロナウイルスの感染が始まってから、感染者やその家族に対する忌避だけでなく、さまざまな誹謗中傷が発生し、同時に、感染者をケアする医療者に対しても同様の差別が見られることもありました。この動きに対して、感染者や医療関係者に対する差別や偏見の防止を呼びかけたシトラスリボン運動が、2020年4月に開催校の松山大学から始まりました。私たちはこれをきっかけとして、感染症のスティグマについて歴史的に、かつ包括的に考えるシンポジウムを企画しました。この機会に会員のみなさんと一緒にスティグマを乗り越える道について一緒に考えていきましょう。

ハイブリッド開催は本学会において初めての試みであるため、どのようなトラブルが生じるの

か予想できない面もあり、ひょっとしたら何かとご不便をおかけすることもあるかと思えます。これまでの大会運営の経験を受け継いで、みなさまのご支援をいただきながら進めてまいりたいと思えます。懇親会についても、2年ぶりに対面だけの開催を予定しています。来年の5月最終週の週末は、愛媛県松山市の松山大学樋又キャンパス2階会場とオンライン会場にて、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

(第48回大会長・山田富秋氏[松山大学])

## 2. 第48回大会演題申込等のご案内

第48回日本保健医療社会学会大会は、新型コロナウイルス感染症の流行状況や社会状況などを総合的に判断し、2022年5月28日(土)・29日(日)の両日、松山大学樋又キャンパスとオンラインのハイブリッド形式で開催することにいたしました。開催校は松山大学になります。現在、ハイブリッド開催に向けて準備をすすめています。

先日の会員一斉メールにてお知らせした通り、第48回大会の演題等の申込が開始となりましたので、申込期間を併せてお知らせいたします。多くの皆さまのお申し込み、およびご参加をお待ちしております。

一般演題申込期間：2021年12月6日(月)～2022年1月20日(木)17時(受付厳守)

RTD発表申込期間：2021年12月6日(月)～2022年1月20日(木)17時(受付厳守)

事前参加受付期間：2022年3月14日(月)に開始します。参加登録はすべて事前登録になります。クレジット・カード払いの方は大会当日まで受け付けます。銀行振込の方は2022年5月13日(金)までとなりますのでご注意ください。なお、詳細は3月から開設する「参加登録・オンライン会場・現地会場」のページをご確認下さい。

なお、演題等申し込みの詳細は以下の大会ホームページに記しておりますので、ご検討の方々はお参照ください。

<https://jshms-conference2022.jp/>

ぜひとも会員の皆さまの積極的なご参加をお待ちしています。

(天田理事：研究活動担当)

## 3. 理事会報告

2021年11月15日(月)に2021年度第3回理事会が開催されました。詳細は以下の通りです。

日時：2021年11月15日(月)13:00～16:00

会場：ZOOM会議

出席者：小澤会長、戸ヶ里理事、天田理事、伊藤先生、本郷理事、前田理事、井口理事、田代理事、石川理事、心光理事、山田大会長(第48回)、事務局 平野(国際文献社)

1. 第48回大会報告(第48回大会長:山田先生)

山田第48回大会長より配布資料の通り、ハイブリッド開催にしたいとの提案があり、承認された。現地での参加人数及び大会校提供の旅館への宿泊者数を事前に把握する為、全会員向けに11月中にアンケートを行うこととした。

2. 第49回大会について(第49回大会長:西村先生/代理:天田理事)

天田理事より村上優子会員が第49回大会実行委員長となったとの報告があった。

3. 2021年度 前期予算執行状況(戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より配布資料の通り、10月末時点での予算執行状況について報告があった。収入については会費納入率が75%で2月にも督促請求を予定していること、雑収入に第47回大会の補助金返金分と黒字分の寄付が計上されているとの説明があった。支出については印刷製本費及び郵送費には論集特別号と1号が計上されていることが伝えられた。また、大会・研究会・部会活動補助費については大会補助金20万円、大会赤字補填として40万円、定例研究会20万円、看護・ケア研究部会補助金3万円が予算立てされており、現時点では大会補助金20万円と看護・ケア研究部会補助金3万円が執行されているとの説明があった。

4. 編集委員会報告(井口理事・田代理事)

井口理事より、査読論文送付ミスに関しての報告があり、改善策の一環として編集委員長と副編集委員長が管理業務に専念するため編集委員を2名増員するとの提案があり、承認された。

査読の遅延が発生した際のルールが曖昧なため、ある程度ルール化すべきとの意見があり、編集委員会で検討することとなった。

5. 定例研究会の報告(関東)(天田理事・前田理事)

天田理事より第49回大会実行委員長である村上優子会員を研究活動委員として追加したいとの提案があり、承認された。

12月18日にオンラインにて定例研究会を開催すること、3月26日に看護・ケア研究部会と共催で定例研究会を開催することが伝えられた。

6. 定例研究会の報告(関西)(伊藤理事・本郷理事)

3月2週目にオンラインにて第48回大会企画と連動した定例研究会を開催予定との報告があった。

7. 看護・ケア研究部会の報告(伊藤理事)

3月26日に関東定例研究会と共催で開催する際、指定討論者4名を招いて行う予定であることが伝えられた。

8. 渉外・国際交流活動の報告(石川理事)

石川理事より随時、国際学会の情報収集をしており、適宜、会員へ情報提供を行うことが伝えられた。

9. 園田賞選考委員会について(天田理事)

天田理事より3月には受賞者を決定する予定であるとの報告があった。

10. 国際文献社への事務委託契約について (戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より次年度契約書案について説明があった。各理事において確認を行い修正の必要がある場合は1月までに連絡をすることとした。

11. 名誉会員推挙について (戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より配布資料の通り、名誉会員推挙について70歳以上で且つ、条件の1つである会長経験または理事、監事通算10年以上務めた会員はいないことが伝えられた。該当なしとし、もし、学会への貢献が大きい等、推挙に値する会員がいる場合には理事メーリングリストに提案し、検討することとした。

12. ニューズレター119号の配信について (心光理事)

心光理事より配布資料の通り、ニューズレター119号の目次案について確認があった。会員動向は毎号ではなく年1回掲載することとした。原稿締め切りについては12月10日とし、大会に関して原稿提出が難しい場合には後日調整することとした。

ホームページのトップページに掲載されている日本学術会議新規会員任命拒否に対する声明については掲載から1年経過していることから、ニュースページに移動することとした。

13. 入退会者の承認について (戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事より配布資料の通り、新入会者6名の承認依頼があり、承認された。また、退会2名の報告があった。今後、理事経験者が退会をする場合には御礼の言葉を添えて対応することとした。

14. 第50回、第51回の大会校(大会長)について (小澤会長)

小澤会長より前理事会からの引継ぎにおける大会長選任の部分について説明があり、それをもとに審議を行った。その結果、次回理事会までに各理事が候補を検討し、提案することとなった。

15. マイページについて (戸ヶ里理事)

戸ヶ里理事よりマイページについて説明があった。正式に導入することとし、各理事にてテスト環境の確認をすることとなった。

16. その他

天田理事より医学教育コアカリキュラムのワーキンググループについて12月に開催予定であるとの報告があった。

17. 次回の理事会日程

1~3月頃に開催することとし、後日日程調整をすることとなった。また、今後の状況に応じてハイブリッドでの開催を視野に入れることとした。

(戸ヶ里理事：総務担当)

#### 4. 定例研究会(関東)報告

2021年度第2回関東定例研究会は、2022年3月26日(土)14:00~17:00、Zoomによるオンライン開催となります。看護・ケア部会と共催で行います。詳細は看護・ケア部会のご案内をご覧ください。

(天田理事・前田理事：研究活動担当)

## 5. 定例研究会(関西)報告

2021年度第1回関西定例研究会を、2021年9月11日(土)に医療社会学研究会との共催によるオンラインで開催しました。今回は、野島奈津子会員(石巻専修大学)の御高著『診断の社会学——「論争中の病」を患うということ』(慶應義塾大学出版会、2021年)の合評会とし、著者の野島会員に加え、コメンテーターとして佐々木洋子会員(和歌山県立医科大学)、渡辺翔平会員(大阪府立大学大学院)にお願いし、美馬達哉氏(立命館大学)の進行で、冒頭からそれぞれの専門的見地からコメントをいただきました。

佐々木会員からは、ADHDをおもな事例とする医療化論の観点から、診断のもつ意義や、社会運動(あるいはセルフヘルプ・グループ)への展開可能性、ジェンダーや年代による差異についてコメントがありました。渡辺会員からは、N.ローズ、A.ペトリーナが提起した「生物学的市民(biological citizenship)」概念の観点から、患者が非市民扱いをされつつも、かえって生物学的なものが抵抗の資源たりうるのでは、というコメントがありました。従来の保健医療社会学では、議論の前提として診断を自明視してきたと言えますが、野島会員が聞き取りデータから示した各事例は、生物医学的な診断を得ようと奔走することで、かえって周囲の無理解に苦しみ、本来もつべき市民権を十全に行使できない状況であったと言えます。さらに参加者からは、ジェンダー差について、西洋近代医療における「診断の社会史」の可能性といった論点も提示されました。

当日の参加者は会員・非会員合わせて37人の盛会となり、野島会員の知見や、コメンテーターをはじめとするフロアとの議論を広く学会内外に発信することができました。オンライン開催による研究会は、関心のある参加者が全国から参集可能な点で優れていますが、参加者の反応が対面に比べて見えづらいという難点も主催者として感じます。第2回目の定例研究会は3月に開催予定です。会員のみなさまにおかれましては、今後も積極的な定例研究会への参加をお願いしたいと思います。

(伊藤理事・本郷理事：研究活動担当)

## 6. 看護・ケア研究部会報告

### 1) 2021年度第2回定例研究会報告

日時：11月20日(土)14:00~17:00

場所：オンライン(Zoom)

第1報告：第一報告『『日本的ジョブ型雇用』として捉える 看護師の労働意識——『転職口コミサイト』を通じた離職・労使コミュニケーションの再検討——』(鹿島謙輔、放送大学大学院)

概要：

本報告は修士論文として作成中のものであったが、「学問水準に近づける」ため忌憚のないご意見をいただきたく発表を行った。

課題設定として「看護師の離職・労働意識」に関する看護学・経済学・経営学・社会学の先

行研究から、「離職を促す臨床外的視点」「病院という職場を個別的に観察する視点」「労使関係的な視点」からの分析が少ないことに着目し、「ジョブ型雇用」概念の視点から「転職口コミサイト」を対象に分析することを試みた。「臨床外的な視点」として、看護師の職務意識、多様な就業場所、人材紹介会社、看護師のキャリア志向、を整理し、「病院の個別的観点」「労使関係」を「転職口コミサイト」から実証的に分析資源を抽出した。

結論的な分析に至らない報告となり大変ご迷惑かけたが、テーマである「ジョブ型雇用」の視点からの分析と報告内容に関連性をもたらすことができず、また分析対象の実証性にも疑念が呈され「ルポルタージュ」の域を出ないことをご指摘いただいた。ご指摘から軌道修正を行うとともに、12月に提出する修士論文の執筆に励みとなるお言葉もいただき大変感謝しております。

## 第2報告：「付き合い続ける実践——障害児者家族に対する富山型デイサービスふらっとの試み」 (三枝七都子、東京大学大学院)

概要：

今回は、2017年から現在までフィールドワークを続けている「富山型デイサービスふらっと」で見られた障害児者家族との関係のあり方について報告させていただきました。

職員側の実践とその認識について着目していた（興味がある）にもかかわらず、母親（利用者家族）の語りを中心に分析してしまっていたことや、分析方法の記載が曖昧であるといったご指摘をいただき、多くの改善点に気づくことができました。

また、富山型デイサービスで見られる実践が、他（福祉領域で言われている伴走型支援など）とどのように違うのか/共通するのかといった考察視点についても助言いただきました。

今後は、いただいたコメントを踏まえ再考し、投稿論文としてまとめていきたいと思えます。

## 2) 2021年度第3回定例研究会の案内

日時：2022年1月8日（土）14時～17時

開催方法：Zoom

報告者：募集中

各回、最大2名まで報告可能ですので、

報告をご希望される方は鷹田（y-takata@redcross.ac.jp）までご連絡ください。

## 3) 公開研究例会（合同定例会）の案内

以下の日程で、研究活動委員会と看護・ケア研究部会の合同定例会を開催致します。新型コロナウイルス感染症対策が続く中、新たな医学的情報が多様な媒体を介して、次々と提供されております。中には、未だ実証されていない知識や不確かな情報もあり、それらをいかに受け止めるかは、安心して暮らすための大きな課題です。本定例会では、社会的にコンフリクトのある科学技術の問題について、意見や利害の異なる者同士が対話・協働する場の企画や運営、評価を主な研究テーマとされている八木絵香先生にご登壇いただき、「専門家と市民とのコミュニケーション」

に関する講演をいただきます。指定討論者、および参加者の皆様とともに、本課題についてじっくり議論できる機会としたいと思います。

日時：2022年3月26日(土) 14:00~17:00

場所：オンライン

登壇者：八木 絵香氏 (大阪大学 CO デザインセンター)

講演テーマ：「長期化するパンデミック禍における専門家と市民とのコミュニケーション」

(鷹田佳典氏：看護・ケア研究部会庶務担当)

## 7. 渉外・国際交流活動

国際交流委員会では、引き続き、関連する分野の国際学会や海外研究者招聘の予定、学会員の参加が可能な講演・セミナー等の情報提供を行っております。皆様からも、ぜひ情報をお寄せください。以下に、前回 NL 後のアップデートも含め、関連する国際学会等の情報をお知らせします。

帝京大学ハーバード特別講義 (Teikyo-Harvard Special Sessions)

2022年1月13~16日に Ichiro Kawachi 教授 (Harvard T.H. Chan School of Public Health) の社会学の講義がオンラインで開催されます。学外からも聴講可。詳細は以下をご確認ください。

<http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~tsph/index.html>

第16回世界生命倫理学会 (WCB, World Congress of Bioethics)

国際生命倫理学会主催で、2022年7月20~22日にスイスのバーゼルで開催予定。

<https://iab2022.org/frontend/index.php>

アメリカ社会学会 2022年大会 (第117回年次総会) (American Sociological Association)

2022年8月5~9日にカリフォルニア州ロサンゼルスで開催予定。大会テーマは“Bureaucracies of Displacement”で、COVID-19によって浮き彫りとなった官僚制の経済的・政治的危機、不平等等について取り上げます。抄録締切 2022年2月9日。

<https://www.asanet.org/annual-meeting-2022>

欧州医学教育学会 (AMEE, The Association for Medical Education in Europe)

2022年8月27~21日にフランスのリヨンで開催予定。医療者教育における行動科学教育への関心が高まる中、社会科学系の研究者との共同研究も見られます。抄録締切 2022年2月18日 (一部締切済)

<https://amee.org/conferences/amee-2022>

## ヘルスケアコミュニケーション国際会議 (ICCH, International Conference on Communication in Healthcare)

2022年9月5～9日にスコットランドのグラスゴーで開催予定。医療系、人文社会系の様々な専門領域から、保健医療におけるコミュニケーションに関心をもつ研究者が集まる学会です。抄録締切 2022年2月6日。

<https://each.international/eachevents/conferences/icch-2022/>

## 第20回世界社会学会 (ISA, World Congress of Sociology)

2023年6月25～7月1日にオーストラリアのメルボルンで開催予定。大会テーマは「Resurgent Authoritarianism: The Sociology of New Entanglements of Religions, Politics, and Economies」。

<https://www.isa-sociology.org/en/conferences/world-congress/melbourne-2023>

(石川理事：渉外・国際担当)

## 8. 会員情報管理のための「マイページ」の導入について

現在会員の名簿情報管理は、会員の先生方からのメールのやりとりを通じて事務局にて手作業で行ってまいりました。しかし会員数も700名近くとなり省力化と利便性の向上のため、「マイページ」を導入することといたしました。これにより会員本人が名簿内容について随時確認でき、例えば引っ越しや職場異動した場合はすぐにご自身で情報の更新ができます。また事務局に問い合わせが多い会費の納入状況もこのページから確認することができます。郵便物や請求書などの配布先の選択・変更、メーリングリストの配信や停止の作業も会員ご自身で選択できます。この「マイページ」は今夏より検討を開始し、試験運用を経て2022年1月より会員の皆様に使用いただけるように現在準備しているところです。使用にあたっては、IDとパスワードが必要となります。1月に改めてご案内してまいります。

## 9. 「保健医療社会学を学べる研究者」情報の募集

本学会では会員からの自主的な提供によるデータに基づき「保健医療社会学が学べる研究者」のリストを作成し、学会ホームページ上に掲載いたしております

(<https://square.umin.ac.jp/medsocio/list-researcher.html>)。

このリストに掲載をご希望の方は、上記ページにある「掲載情報」(Excelファイル)にご記入の上、学会事務局までメールでお送りください。常勤であることや研究室を持っていることは、情報を掲載する条件ではないので、非常勤教員の方もどうぞ情報をお寄せください。

掲載内容は毎年度末に掲載継続・更新のご要望をお尋ねし、掲載継続の希望が示されたもの以外は年度末で削除します。なお、すでに掲載をされている方で、情報の変更や削除を希望される方は、事務局までお知らせください。

(心光理事：広報担当)

## 10. 編集後記

ニューズレターNo.119では、来年5月に開催される第48回大会の情報、研究活動の報告、マイページ運用開始の案内を中心に掲載いたしました。

次回大会は本学会初のハイブリッド開催を予定しています。第48回大会のホームページもご確認いただき、ふるってご参加ください。

(心光理事：広報担当)

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当 (心光世津子)
学会事務局：東京都新宿区山吹町358-5	アカデミーセンター
jshms-office@bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375